

奥尻町におけるICT漁業を利活用したリソース・シェアリング実装事業

別紙

提案者	北海道奥尻町	要件	1
実施地域	北海道奥尻町		
事業概要	IT漁業の成果事例(北海道函館市、地域情報化大賞2015総務大臣賞)を活用して、ウニ、アワビ、ナマコといった磯根漁業への推進や着業者の減少を抑えるため、磯船に3G/GPSセンサーを搭載し、「うみのレントゲン」「うみのアメダス」によるデータに基づき、「高収益漁業支援」を構築する。また、関係機関とのリソース・シェアリングにより、「海難救助体制」「担い手の育成」に活用し、沿岸漁業の安定化を図り地域活性化を実現する。		

[地域課題]

奥尻町の主要産業は水産業であったが回遊魚の減少による水揚量の減少と、組合員の高齢化から漁業存続が危うい状況に陥っている。

資源管理により安定した「島の漁業」の存続・発展を目指し、さらに新米・高齢漁業者が安全で安心して操業できる体制の構築及び次世代の担い手の育成により新規漁業者の増加が必要とされている。

[目標]

- I. 安定した持続可能な沿岸漁業で漁業所得を増やす。
- II. 安全に操業できる体制で漁業就業者を増やす。
- III. 安心できる海難緊急体制で着業者減少を抑える。

[実施事業]

- I. うみのレントゲン技術で、磯根資源(ウニ、アワビ、ナマコ)の漁獲と保護を見える化する仕組みを構築する。
- II. うみのアメダス技術の海洋情報と磯舟(138艘)の操業位置をGPS情報で把握し、ベテラン漁師の技を継承できる体制を構築する。
- III. 位置情報及び海洋観測情報から海難の早期検知・発見が可能となり、安心して操業できる体制を構築する。

